



～目次～

- 病院短信 高野 正孝
- 日常の一コマ 前島 しほり
- いきいき看護・介護 小島 有加
- 医事課だより 森川 雅子
- 七夕笹飾り デイルームにて
- ジャガイモ調理&試食会 作業療法室にて
- スタッフ紹介 鶴見 恵子

### 8月の予定

◇誕生日会

1病棟	8月 4日 (金)
2病棟	8月 18日 (金)
3病棟	8月 7日 (月)
各病棟デイルーム 14:00～	



1階談話室では、今年もそれぞれの思いのこもったたくさんの短冊が笹を彩りました。皆さんの願い事叶うといいですね。



### ジャガイモ試食しました

春先に植えたじゃが芋を収穫し調理しました。メニューは冷製スープとポテトサラダと副菜。協力して作って、皆で楽しく試食会です。

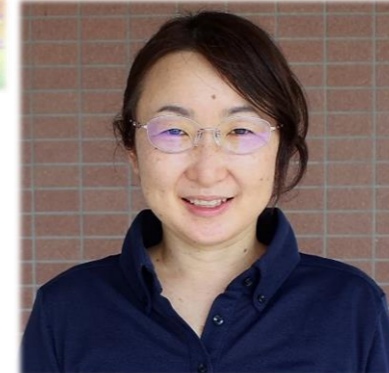


美味しくて思わず笑顔！  
**大変おいしかったです！**

### スタッフ紹介

3病棟看護師  
つるみ けいこ  
鶴見 恵子

星座：ふたご座  
日課：犬の散歩  
趣味：たまに行くキャンプ



5月に入職して約3ヶ月が経ちました。師長さんをはじめ先輩方にはご指導いただき感謝の気持ちでいます。仕事を覚える段階ではありますが、患者さんと関わる中で安らぎを与えられるように努めていきたいです。時間に余裕がある時はキャンプに行き、自然を楽しむのが好きです。よろしくお願いします。



# 日常の一コマ

今月は1病棟のふく子さん（78歳）をご紹介します。ふく子さんは富山県に生まれ、中学卒業後は地元の工場に勤めました。23歳で結婚、2人のお子さんに恵まれ、近くのスーパーでパートの仕事をしていたそうです。明るくテキパキとしていて、PTAの役員もしていたふく子さんですが、40歳代になると原因不明の体調不良に悩まされるようになりました。家事ができず寝ていることが多くなったため、いくつかの病院を受診したところ、統合失調症と診断されたそうです。その後も20年近くは通院しながらご自宅で生活を続けていました。



69歳頃より物忘れがひどくなり、生活に支障をきたすようになりました。裸足でバスに乗ろうとしたり、一人で外出して迷子になってしまったりと、近隣住民や警察に保護されることもあったそうです。デイサービスに通い始めたものの、一日中泣いていたりと、他の利用者さんを怒鳴りつけたりするトラブルもあって、老健施設への入所を余儀なくされました。ところが、施設入所後もふく子さんが落ち着くことはなく、スタッフへの暴言や介護抵抗は続き、他の入所者さんへの暴力もありました。また、歩行が不安定だったために身体抑制をされていたそうです。結局、ご自宅に戻ることはできずに平成30年8月、当院に入院することとなりました。

私は1病棟に異動してまだ間がないので、入院当初のふく子さんの様子は分かりませんが、当時を知るスタッフによると、暴言はやはり激しかったようで…。時には寄り添い、時には距離を置いて見守り、たまに気分転換に庭をお散歩するなど、根気強く対応するうちに、ふく子さんは少しずつ当院での生活に慣れて下さいました。最近のふく子さんは、足がパンパンにむくんでいるのにも関わらず歩こうとしています。思わず駆け寄って声を掛けると「うるせえ！」と言われることもしばしば。また、デイルームの椅子に足を乗せてマッサージをしようとすると「何するんだよ！」と怒鳴られてしまいます。それでも、「足がむくんでからマッサージが必要なんですよ」と優しく伝え、ぶっきらぼうな感じに「ありがとう！」と言って、ほんの少しだけ笑顔を見せて下さいます。これからもふく子さんが笑顔で穏やかに過ごせるように頑張っていきたいと思います。

1病棟介護福祉士 前島 しほり

69歳頃より物忘れがひどくなり、生活に支障をきたすようになりました。裸足でバスに乗ろうとしたり、一人で外出して迷子になってしまったりと、近隣住民や警察に保護されることもあったそうです。デイサービスに通い始めたものの、一日中泣いていたりと、他の利用者さんを怒鳴りつけたりするトラブルもあって、老健施設への入所を余儀なくされました。ところが、施設入所後もふく子さんが落ち着くことはなく、スタッフへの暴言や介護抵抗は続き、他の入所者さんへの暴力もありました。また、歩行が不安定だったために身体抑制をされていたそうです。結局、ご自宅に戻ることはできずに平成30年8月、当院に入院することとなりました。



## 病院短信

副院長

高野 正孝

『食べることは生きること』  
私は大学時代に、精神修養と称して断食をやったことがあります。聖書に「人はパンのみに生きるにあらず」とあるからです。1週間、水のみで生活すると腹は減りますね（当たり前）。その時悟ったのは、「腹が減っては戦ができぬ」でした（トホホ）。食べることは生きること、生きる喜びの基本です。

「何なら食べられるか」「どうしたら食べられるか」日々の診療で、これを私は大切にしています。食べられるようにすることを、診療の目標にしているのです。例を上げてみます。

85歳の女性です。病気は統合失調症で、それに認知症が加わり、薬も食事も全て拒否して吐き出してしまいます。前の病院では点滴以外なすすべなしとして、点滴をしながら当院に入院しました。点滴は末梢からです。早々（そうそう）に血管が駄目になり、点滴が入らなくなった時点でこの人の命はなくなるのです。そういうタイムリミットのある状況で、どうやって食べさせるかをみんなで考えました。

統合失調症で、食べ物に毒が入っていると思い込む被害妄想があると、意図的に全てを吐き出してしまいます。そこで、精神科のドクターがセラネースを1アンプル筋注しました。それが少し奏効しました。すぐに吐き出したり、口をつぐんでしまったりするのではなく、少しは口の中に入れるようになったのです。ところが、です。栄養補助食を与えますが、甘いものが嫌いで、舌で押し出してしまいます。いろいろな物を試しました。ナースが自分のポケットマネーで、せんべい、饅頭（まんじゅう）、おかきなどを買ってきて



【8月10日はかっぱえびせんの日】  
「かっぱえびせん」のキャッチコピーの「や(8)められない、と(10)まらない」から、8月10日(やめとま)としたもの。

てみました。なぜそんなお菓子を買ってきたかとナースに聞いたら、ある時ひとこと患者さんが、「おかき」と叫んだそうです。それを聞いて、そういう類のものなら食べるかと思ひ、買ってきてくれたのです。床頭台の上や引き出しの中には、お菓子の袋がたくさんありました。その中で、ヒットしたのが、「かっぱえびせん」だったのです。これを左の奥歯の方に押し入れると、カリカリと噛んで食べるのです。いちどきに50本食べました。最高記録は63本です。私も上げてみました。30本くらい一気に食べました。10本くらい食べると、少し口が乾きます。そこに栄養補助剤を注入するのです。テレビのコマーシャル、「食べだしたら止まらない、かっぱえびせん」。これは本当ですね。患者さんの看護日誌には、かっぱえびせん30本、アミノプロラス（栄養補助剤）1本というように、毎日書いてありました。かっぱえびせんで、生きることができたのです。残念ながら3か月後、誤嚥性肺炎を起こして亡くなされました。「何なら食べられるか」を根気よく探した事例でした。

## 医事課 だより

医事課主任 森川 雅子

すでに猛暑が続いていますね。私はこの暑さの中、休みの日も外に出る気にならず、家の中に引きこもっています。家の中でも熱中症になるリスクは高いので、睡眠・水分・食事をきちんと摂って熱中症には気を付けましょう。さて、7月末で「保険証」「減額認定証」「限度額認定証」などの期限が切れている方がいらっしゃいます。役所から新しい保険証等が届きましたら、病院へご掲示、またはご郵送をお願いします。確認が取れない方にはお電話させていただきますので、ご協力をお願いします。また住所が変わった方、75歳の誕生日を迎えた方、限度額認定証の適応になった方、区分が変わった方は、必ずその月のうちに保険証のご提示をお願いします。確認が遅れると請求の金額が変わり、返金や追加の金額を頂くことになってしまいますので、よろしくをお願いします。もし分からない事があれば、どんなことでも遠慮なく医事課までお問い合わせください。お待ちしております。



よろしくお願ひします

## いきいき看護・介護

3病棟 看護師 小島 有加



毎日暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。この時期は厳しい暑さのせいもあり、食欲不振になったり、夜もなかなか寝付けなかったり、生活習慣も乱れがちで、体調を崩す方もいらっしゃるのではないのでしょうか。体が弱って免疫力が落ちている私たちを狙っているのは、いわゆる「夏風邪」と呼ばれる感染症です。夏風邪とは、「プール熱（咽頭結膜熱）」「ヘルパンギーナ」「手足口病」といった、梅雨から夏にかけてかかりやすい病気の総称で、夏の三大感染症とも言われています。夏風邪は子どもの感染症と思われるのですが、大人も感染するリスクがあるため、油断は禁物！予防するには毎日の心掛けが肝心です。クーラーを付けた室内は乾燥しがちで、カラカラに乾いた鼻やのどの粘膜にはウイルスが付きやすくなるので、こまめな水分補給を心掛けましょう。また、手洗いの習慣をつける、ストレスをためない、十分な休養を取る、栄養をバランスよく摂取する、などのちょっとした生活習慣で免疫力をアップすることが出来ます。まだまだ暑さは続きそうですが、夏風邪にからまないよう気を付けてお過ごし下さい。

